

【4】遊 び

(1) 実 態

「からだづくりを通して」という研究の初年度にあたる昨年度、小学部では研究に関わる調査を行った。そのひとつに児童の遊びの実態の調査がある。その結果、遊びの種類としてはゆりかご・ブランコ等の特定の遊具に集中し、経験の少ない遊具には興味・関心が薄く、内容としては一人遊びが主で、自分の意志で積極的に遊ぶことが少ないことが分かった。

研究2年目にあたる本年4月当初の実態をみると、昨年度よりもからだのこなしが上手になり動きもスムーズになって徐々に遊びが広がってきた一方、以然として友だち同士で関わりながら遊ぶことが少なく、遊具を興味のままに取り変えるだけで遊びに発展性がみられないなどの様子がみられた。

(2) ね ら い

小学部の子どもたちは発達段階から、感覚運動、更に運動遊び（身体全体の均衡をとりながら身体運動をする遊び）が、最も発達する年令であると同時に、みたて活動やつもり活動などの象徴機能の高まりもみられる時期である。こういった子どもたちの成長発達の段階を考えながら、子どもたちの遊びの種類を豊富にし、あまり使おうとしない遊具に目を向けさせるなど、今の遊びをより発展させながら、友だちとの関わりを深めるとともに最終的には子どもが発達していくからだの素地を養うことをねらいとする。

(3) 組み立ての方針

内 容	方 法	体 制
自由遊び	子どもを何の制限もなく自由に遊ばせる	学級
設定遊び	一人ひとりの発達段階において、その子どもに相当であると思われる遊びを、教師側が意図的な指導で子どもを遊ばせる。	
遊具遊び	子どもが自由に遊ぶことを原則とするが、教師の指導配慮を付け加えて子どもを遊ばせる。	学部

※遊具遊びにおいては、下記の点にポイントをおいた。

- 仲間意識を育てる。
- 遊具（素材）のもつ楽しさを知る。
- 思いきりからだを動かすとともに、みたて・つもり活動を取り入れる。

(4) 遊具遊び実践例

本年度は、遊具遊びとして普段子どもたちが行こうとしない（遊具設置場所が比較的遠いことや遊び方・楽しさを知らないためと思われる）遊具に目を向けて「アスレチックで遊ぼう」と呼びかけ鉄棒やつり橋・うんてい・平均台などで遊んだり、「まほうのシートで遊ぼう」と

いう設定でビニール袋を芝山の頂上で与え子どもたちのみたて・つもり活動を取り上げた実践などを行ってきた。それらの実践の中から、「芝山で遊ぼう」と呼びかけた遊びの実践について述べてみたい。この実践は、9月26日と27日の2日間、同じ場所設定をして子どもたちの変容をみようとしたものである。

	9月26日(第1日目)	9月27日(第2日目)
5	<ul style="list-style-type: none"> •芝山に子どもたちが集合しはじめる。 •すでに集合している友だちをめざして斜面を一気にかけ登る姿もみられる。(とりたてて指示を出さず) 	<ul style="list-style-type: none"> •「芝山で遊ぼう」と誘うと、ソリをする と張り切って芝山に向かって走っていく。 •ソリすべりを楽しむ子がほとんど(順番待ちをしながら前回よりも急斜面を選ぶ子もいた)
10	<ul style="list-style-type: none"> •斜面を登ったり降りたりしている。<5年男子がソリを要求する> •3組の子ども中心にソリすべりが展開する。 •見ているのみだった1・2組の子ども一人ずつソリすべりに集まってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> •順番を待つ子の中に、石段を登り降りして遊ぶ子がはじめる。 •石段で遊ぶ友だちをみて、自然とソリ遊びから石段遊びへと遊びが発展(ヨーイドンで競争したり、高度な技術に挑戦したりする)
15	<ul style="list-style-type: none"> •私もと要求)と、形は様々である。 •誘われて 	<ul style="list-style-type: none"> (一人ならこわがってやろうとしないH子がわたしもと先生を誘う場面もみられた)
20	<p>他の遊具に移った3名以外は、「ソリ遊び」という一つの遊びに集中し、ソリ遊びを最後まで楽しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> •芝山の斜面を利用してどんぐりになったつもりでころがったり、しゃがみ歩きをしたり、次から次へと遊びが展開し、集団ができる。
25		<ul style="list-style-type: none"> •ヨーイドンでかけ降りて解散させる。

この事例から、子どもたちにとってからだを充分に動かして遊べる場所と時間の設定は、子どもたちの遊びを発展させ、自然な友だち同士の関わりも深めることができるといえる。一人だけではなかなか芝山で遊びを発展させることができなくても、たくさんの友だちの中で芝山の楽しさを知り、また行きたいと思える子どもになる。また、一度きりの設定ではなく、何度か繰り返すことによって、目的的遊びが展開され、遊びの楽しさを味わうことができるということもいえる。

(5) 考 察

近頃子どもたちが遊んでいる様子を見ると、からだのこなしが非常に上手になり、自転車や三輪車など今まであまり興味の向かなかった技術の必要な遊具に積極的に取り組んだり、教師に誘われなくても天気の良い日は外に出て、砂遊びや遊具遊びをする姿がみられるようになった。しかし、まだまだ一人では仲間を作ったり遊びを発展させることは難しく、教師と一緒に遊ぶ中で遊びの楽しさを少しでも味わわせたり、いろいろな遊びを経験させていくことが大切である。